

木は1年に1回実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。  
【3~5年で資金3倍化を目指して】

## 素人がプロに勝てるのは時間の使い方

個人投資家が勝ち続ける唯一の方法があります。その方法は、次の相場格言に隠されています。「素人がプロに勝てるのは時間である」という相場格言です。プロはつまりファンドや年金資金の運用者、機関投資家は他人の資金を運用するため一定期間内に成績をださなければなりませんので、相場を休むことなく売買を繰り返さなければなりません。それに対して「時間」の制約がない個人投資家は、相場がわからなくなったら休むことができるという「時間」を自由にできる有利差があります。しかし、現実の個人投資家は、ほとんどプロの人々と一緒になって日々売買を繰り返しており、誰もが儲かる上昇相場の時だけ儲け、下降相場や保ち合いなど方向感がない相場の際は儲けをすべて吐き出し、逆に損失をだして、株式市場から撤退していくというのがふつうです。

私の柴田罫線をベースにした投資法は年2~3回の大きな調整を狙うというものですが、株式投資をやっている人は、なかなか待つガマンができません。上に述べた「時間」を自分のものとするのができないのです。私は当社のネット会員(出島式投資ワールド)に対して昨年の7/4(金)にNYダウを分析し下降トレンドに転換したので、これまでの投資スタンスを修正しキャッシュ化優先をアドバイスしました。その後10/28に7000円を割れて6994円をつけましたが、その1週間前にここからは買い下がりの方針でということと買い下がるための考え方をコメントし、今後長期投資として低位株はリスクが少なく大きなチャンスとなるとし、10/23にトヨーカnetz、10/24に三井松島の2銘柄を推奨しました。

このレポート「金のなる木」の特徴は、「個人投資家」にとって「時間」を有利に使って儲けるための投資レポートです。基本的に買推奨銘柄は、大きく全体相場が下落した局面でしか提供しませんが、その後の銘柄のフォローは行っていきますので、儲けは大底で買うよりも少なくなります。途中でも参加できることとなります。特に今年は大底をどこで打つかわかりませんが、大底圏での大きな上下動の中で低位株を狙うというやり方は、少ない資金で大きな利益を得る投資となります。全体相場の上限と下限を想定しながらの投資アドバイスですので、割り切った長期投資(2~3年そのままにしておく)の方は別として1年に数回は利食っていくというアドバイスを行います。今月ですとNYダウの9000ドル台のせ日経平均の9200円のせでは、いったん利益確定してよいということになります。平時ですと年間20万ぐらいとってよいぐらいの内容だと思っておりますが、現在のような厳しい経済環境の中では低価格で内容のあるレポートにして、少しでも多く儲けて頂け

たらと考えています。すでに2つの実績ができてきました。

(1)週刊誌フラッシュ記載・低位大底株 10 銘柄の結果 (11/7~1/8)

1/8 時点

コード 銘柄	年初来高 値・過去 最高値	11/7(金) の株価	買い下がり の 待ち伏せゾーン	ポイント	その後 の安値	その後 の高値	待ち伏 せ到達	上昇率
1518 三井松島産業	412 円 592 円	171 円	110~130 円 100 円以下	豪州産石炭など海外炭鉱開発に いち早く注目	12/26 120 円	11/10 183 円		52%
5352 黒崎播磨	336 円 818 円	154 円	130~150 円 110~120 円	新日鉄系の耐火物最大手。 ブラジル企業との連携協議も	11/13 133 円	12/16 279 円		109%
5803 フジクラ	568 円 1473 円	269 円	240~260 円 220 円前後	電線・光ファイバーの大手。 自動車関連製品が好調	11/21 234 円	1/7 327 円		39%
5981 東京製綱	363 円 363 円	187 円	150~180 円 130 円前後	橋梁・鉱山の大手。純利益が大 幅に増加	11/21 142 円	12/29 271 円		90%
6313 共立	375 円 484 円	148 円	140~150 円 130 円前後	農林業機器大手。ロシア向けの 販売を増強	新ダイワと経営統合へ			
6369 トヨーカネツ	295 円 413 円	135 円	110~120 円 100 円以下	世界2位のLNGタンクメーカー。 海外中心にプラント建設	11/13 136 円	12/12 189 円	11/7の 117 円 を安値 に反発	38%
6508 明電舎	361 円 538 円	147 円	140~150 円 120~130 円	水処理制御システムの大手。 風力発電の業務提携も	11/21 130 円	1/7 306 円		135%
7003 三井造船	425 円 737 円	142 円	120~140 円 100~110 円	船舶ディーゼル最大手。パイオエ タノール製造設備を受注	11/21 107 円	1/7 177 円		65%
7105 日本輸送機	419 円 1010 円	221 円	200~210 円 180~200 円	バッテリー式フォークリフト大手。 アジア向け市場での販売が好調	12/2 195 円	12/25 230 円		17%
7263 愛知機械工業	426 円 549 円	194 円	185~195 円 160~180 円	日産自動車系部品メーカー。 小型エンジン製造が好調	12/26 145 円	12/12 199 円		25%

バフェットを超えよう出島昇の長期投資レポート「金のなる木」は12/4(木)にスタートしましたが、その前に私の低位株大底買い投資を実証するために、いくつかの週刊誌に提案しましたが、ほとんどが乗り気なく写真週刊誌のフラッシュ「光文社」だけがとりあげてくれました11/25号(発売は11/11(日))に11/7(金)の終値時点で上の10銘柄を選びました。6313の共立は12月に経営統合ということに気づきハズそうとしましたが間にあいませんでした。10銘柄のうち2ヶ月で2倍前後になったので、黒崎播磨、東京製綱、明電舎の3銘柄、マイナスが共立、愛知機械の2銘柄、40%前後の上昇が三井松島、フジクラ、三井造船となり、買いゾーンにまで下がらなかったのがトヨーカネツの1銘柄となっています。低位株の買い方として、10銘柄あれば基本的に全部買ってみるのがポイントといえます。11/7(金)の時点でどれが短期で2倍化するのはわかりませんし、もし愛知機械工業や共立を買ったら非常に運が悪かったということになります。現在の相場は10/28の6994円で底を打っていると確認できていませんので、長期投資であっても50%もしくは100%(2倍化)したらいったん利益確定するという考え方が必要です。それは個別株で大商いして急上昇したらいったん売るというやり方や今の日経平均は7000円~9500円の大きなボックスの中で8000円~9200円台のレンジで動いていますので、日経平均が9200円に近づいた時、保有している株が上昇していればいったん利益確定するというのが重要です。トレンドが長期上昇トレンドとなっていれば、長期保有でもよいのですが、年の2~3回の中期的な天井では、いったん利食った方がよいといえます。それは、今回の私の長期投資レ

ポート「金のなる木」の考え方です。

現在の暴落相場の動きの中では、短期でリバウンドを狙える低位株投資が何回かくるはずで、100円台の株ですので上れば利食い、下がれば2~3回に分けて買い下がる方法となります。外国人が買いに転じてくれば長期保有に切り返ることになります。もちろん、目先の上下動は気にしない人は、2~3年の長期保有も可といえます。

昨年の臨時レポートで、日経平均は大きくは7000円~9500円のボックス圏をつくり、その中で8000円~9200円台の小さなレンジの動きとなっており、8750円を抜ければ9000円台となっており、その後は下落を想定しました。昨日は9325円まであって終値は9239円となり、本日は362円の8876円の急落となりました。この下落は8700円台を守ればオバマ政権の誕生の1/20に向けて再び9300円を試す可能性もあり、そこから本格下落となることも考えられます。多少時間はかかっても現時点では日経平均の8000円水準ぐらいまでの下げを待つところです。

(2)「金のなる木」特別1号(12/4 発送)8銘柄の結果

1/8 時点

業種	コード 銘柄	日経平均 6994 円 をつけた 10/28 前後の安値	買ポイント	12/4 後 の安値	12/4 後 の高値	コメント
鉱業	1518 三井松島	10/28 110 円	124 円前後 100 円前後 80 円	12/5 122 円	12/17 141 円	当社ネット会員(出島式投資ワールド)は 10/24 に買推奨し 10/5 の 180 円近辺でいったん利食いアドバイス。再度の買いとして 12/5 に 122 円で買成立
機械	6369 トヨタカネツ	10/28 88 円	85 円 ~ 95 円 70 円 ~ 80 円 50 円前後	12/22 150 円	12/12 189 円	10/23(木)に買推奨 持続。新規の買い 150 円以下を待つ
建設	1816 安藤建設	9/5 116 円	110 円 ~ 130 円前後 100 円前後 80 円 ~ 90 円	12/5 130 円	1/5 149 円	持続
繊維	3103 ユニチカ	11/21 56 円	50 円 ~ 60 円 40 円台 30 円台	12/5 58 円	1/5 69 円	持続
繊維	3106 クラボウ	10/27 107 円	100 円 ~ 125 円 90 円前後	12/5 126 円	1/5 157 円	持続 新規の買いは 125 円 ~ 140 円
非鉄 金属	5701 日本軽金属	10/10 72 円	70 円 ~ 80 円 60 円前後	12/5 79 円	1/5 98 円	持続 リチウムイオン 新規の買いは 80 円 ~ 90 円
非鉄 金属	5738 住友軽金属	10/8 66 円	60 円 ~ 70 円台 50 円台 40 円台	12/5 77 円	1/5 88 円	持続
機械	7003 三井造船	10/28 103 円	110 円 ~ 120 円 80 円 ~ 90 円 60 円台	12/5 116 円	1/6 172 円	いったん利食いも可 新規 130 円 ~ 140 円台
機械	7004 日立造船	10/10 66 円	60 円 ~ 70 円台 50 円台 40 円台	12/5 72 円	1/6 89 円	持続
金融	8411 みずほ FG	10/28 190000 円	19 万 ~ 22 万円台 16 万円台 13 万円台	12/5 21 万	1/6 29.9 万	1/5 から株式 1000 分割 新規の買い 230 ~ 250 円

**本当に大きく儲けることができるのは、1年の数回の大きな下落(暴落)を狙うこと  
...上の2つの実績から考える...**

ふつうの場合、一般的な投資レポートをとっている人は、今回はどんな銘柄がくるのだろうと期待し、推奨する方も現時点で何かよい銘柄はないかと探して推奨することになります。それが上昇相場の時なら成功するのですが、全体相場が下落に転じればそれらも下落してしまい次から次へと塩漬け株をつくっていきます。これを避けるためには全体相場がある程度上昇している時には大きな下落が生じるまで待つということができなければなりません。待ったときの報酬はそれに見合う大きなものとなります。私が 11/7 の時点で週刊誌に売り込んで買推奨した低位株 10 銘柄と、その後長期投資レポートを企画して 12/4 に特別第 1 号で買推奨した 8 銘柄の実績は月とスッポンの差があります。

低位株 10 銘柄の場合は日経平均が 6994 円をつけた 10/28 から 10 日間ほどしかたっていないので、また誰も恐くて積極的に買えない時です。この時は円高で悪影響のある銘柄以外で業績がしっかりしているものを選べばどんな銘柄でもある程度上昇できるのです。

「金のなる木」の 8 銘柄は、12/4 時点の銘柄選びですのですでに上昇しているのを除外しての選択であるため、その後のパフォーマンスはそれほど大きくありません。つまり、この 2 つの買推奨グループの成果の差は「何を買ったか」というよりも「いつ買ったか」という差になります。日々の相場の動きの中で個別株をみていると、つい買いたくなるのですが、この投資レポート「金のなる木」は「日経平均が大きく調整するのを待って買う」ことを実践するレポートであることを念頭に入れておいてください。すでに日経平均が上昇している時は、下げを想定して待ち伏せ銘柄を出しますが暴落がくれば、予想していなかった儲けの大きい銘柄がでたりしますので資金は余裕をもっておく必要があります。

**【 今回の待ち伏せ銘柄 電池関連銘柄 】**

業種	コード 銘柄	規模	配当	PBR	バブル後 最安値	日経平均 6994 円 10/28 前 後の安値	1/8 終値	買ポイント	材料・テーマ ・ポイント
非鉄 金属	5741 古河ス カイ	中 型	有	0.68	2005 年 6 月	10/28 134 円	209 円	180 ~ 190 円前後 160 ~ 170 円前後 140 円前後	・リチウムイオン電池 関連 ・エネルギー、エレクトロニクス、マテリアル
電気	6504 富士電 機 HD	中 型	有	0.50	2002 年 11/18 173 円	11/21 99 円	146 円	120 ~ 130 円前後 110 円前後 100 円前後	・固体高分子型燃料電池 ・有機 EL ・低環境負荷型の自動販売機開発
機械	6361 荏原	中 型	有	0.65	2002 年 11/18 320 円	10/28 149 円	206 円	160 ~ 180 円前後 140 ~ 150 円	・家庭用燃料電池の本格販売へ ガス化熔融炉、半導体研磨装置 ・環境技術

売買の考え方は 12/4 保存号を参考にして下さい

5741 古河スカイ



2005年12月に、古河電工とスカイアルミニウム両社のアルミニウム事業を統合して設立スタート。2006年1/6に733円をつけて2/14に471円まで下落後、高値圏でのボックス相場の動きとなりました。この中で2007年2/26の683円を高値に本格調整となり、下降トレンド(A)を形成して、2008年の3/17の198円まで下落しました。ここから、いったん反発して6/19の349円まで反発するものの、ゆるやかな下降トレンド(B)へ移行しました。この中で8/27に323円の戻り高値をあとサブプライムローン問題からの世界同時株安で急落し10/28に下降トレンド(B)の下値斜線に134円であたって、自律反発となり11/5に229円をつけました。その後は安値を134円、高値を229円とする三角保ち合い(C)となっていました。12/29に217円で三角保ち合いの上放れとなりました。180円前後の押し目を待つところです。

## 会員様へのご報告

### 昨年度も月刊宝島アナリストランキング3位 5年連続4位内・的中率5年通算No.1

#### <月刊宝島からのTEL>

昨年末、月刊宝島の担当者からTELがあって、恒例の日経マネー、ダイヤモンド・ザイ、マネージャパン、ネットマネー4誌上のアナリストランキング評価で3位になったという報告を受けました。毎年上位メンバーが入れ替わる中で今年で5年間連続のベスト4入りは年々変化する相場環境の中で驚異的なことだそうです。「毎年トップクラスはその年にたまたま当てた人になっていますが、出島さんだけが5年連続4位内という上昇相場であれ暴落相場であれ、安定しているのは信じられません、どういうやり方で銘柄を選択しているのですか」という質問がありました。(月刊宝島3月号 発売予定 H21/1/25)

#### <私達の銘柄選択の考え方>

私やチーフアナリストの宝徳を中心とするスタッフの銘柄選択の基本は、いかにリスクが少ない投資とは何かを考えることが前提になっています。ほとんどの投資顧問や個人投資家が考えているような儲かる銘柄は何かという宝くじのような選択は行いません。そのような行動は、森を見ず木だけをみての投資となり、「投資はどんな下降相場でも必ず上昇する銘柄があるので、それをさがして推奨するのがプロのはずだ」という考え方になります。私達はそういう投資の考え方をとりません。ほとんどの投資家はそのような「何を買うか」を追い求めている投資のため、上昇相場では大きく儲かります。つまり上昇相場(当たりくじだらけの宝くじ)が、下降トレンドに変化(当たりくじが非常に少ない)した時も同じ投資法をつづけますので、儲けのすべてをはきだしてしまいます。重要なのは中期トレンド(週足での年2~3回の大きな上下動)をみていつ買うのかを考え、次にその時何を買うのかを考えることです。そのため方向性が分からなくなったりトレンドが天井を打って変化する可能性が高い時は利益確定を優先し、相場を休むことをアドバイスします。

以上の投資の考え方が基本ですが、雑誌社からの銘柄推奨はほとんど毎月ですので、推奨すべきでない時にも買推奨銘柄を出すことになります。当社の会員の方にはカラ売銘柄を推奨している時に、雑誌には買推奨ができるという何とも割り切れない気持ちになる時があります。ただ、そういう場合でも銘柄選びの基本はかわりません。チャートもチェックしますが基本的には、今期、来期の業績がベースでこれに現在のテーマにのっているかどうか、信用取組みはどうなっているか、最近の株価の動きはどうかなどを検討します。さらに、銘柄を絞って50銘柄ぐらいを追い続けています。こういう日々の努力の結果が5年間を通じて連続ベスト4入りという安定した評価を受けたものと思っています。今回の暴落で株はやっぱりリスクがあると思われている人がほとんどと思いますが、当社の基本的なアドバイスを実行している人は、ほとんど痛手を受けていません。ただし実行できる人は20%ぐらいのものですが、2008年の暴落相場で言い続けてきたことはリスクがとれない人(自分の判断で損切りできない人)は時間が長くなっても相場を休むということでした。それを実行した人は、大きなチャンスをむかえていることになります。今年もリスクを少なく、儲けて頂くよう努力しますのでよろしくお願ひします。